

JAしみず令和4年度上半期 経営状況のご案内

1. JAの地域貢献

当JAは組合員の皆様はもとより、管内の住民の皆様とともに助け合い、発展していく、地域に根差した協同組合です。「農協があって良かった」といわれる農協を確立し、地域から愛され、組合員とともに歩む農協を樹立するという経営理念のもと、農業の発展や豊かな地域社会の実現に貢献することを目的とするとともに、地域から愛されるJAを目指し、金融共済や営農経済をはじめ総合的な事業活動を行い、皆様の日々のお仕事や暮らしのお手伝いをしています。

令和4年度は「農業の生産拡大」、「経営環境に対応した事業・経営の転換」という目標を基に策定された3か年計画の最終年度になります。営農経済事業においては、買取販売の拡充や市場重点化戦略による販売機能の強化と出荷調整作業軽減策の継続を柱として、農家所得の向上と経営規模拡大に努めています。また、柑橘共選場の次期更新にあたっては、県下JAグループと連携して広域化も視野に入れるなど、実現可能な道筋をつけるための検討を進めています。信用共済事業においては、FA・LAによる情報収集・提供活動を活性化させることにより、顧客世帯のニーズを掘り起こし、時代に沿った金融・共済サービスの提案を行っています。

また、JA青壮年部、同女性部をはじめとする組合員組織と共に地域の子供たちを対象とした「食農教育」にも取り組み、「食」や「農業」の大切さを広く流布すべく、率先してその“発信役”を担っています。今年度は、青壮年部員や女性部員を中心にこども園や小中学校、高校で農業体験や座学を行い、地元農産物や手料理の良さを伝えました。

その他、台風15号の豪雨により甚大な被害を受けた農業地帯の復旧を目指すため、急きょ災害ボランティアを立ち上げ、ビニールハウスや園地に流入した土砂の撤去作業を行いました。今後も地域社会への貢献を念頭にこのような活動を継続してまいります。

2. 農協法及び金融再生法に基づく開示債権（単体）

当JAの金融再生法の開示区分に基づく債権額は次のとおりです。
今後も厳格な自己査定を実施し、資産の健全化に努めていきます。

（単位：百万円）

債権区分	令和4年3月末	令和4年9月末	増減
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	653	616	▲37
危険債権	30	19	▲11
要管理債権	0	0	0
三月以上延滞債権	-	-	-
貸出条件緩和債権	0	0	0
小計	684	635	▲49
正常債権	78,525	81,168	2,643
合計	79,209	81,804	2,595

注：1. 令和4年9月末の計数は、令和4年8月末を基準日として行った自己査定結果（債務者区分及び債権額）を基準としています。

2. 各債権の定義は次のとおりです。

- 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいいます。
- 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。
- 「要管理債権」とは、4.「三月以上延滞債権」に該当する貸出金と5.「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金の合計額をいいます。
- 「三月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものをいいます。
- 「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものをいいます。
- 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記に掲げる債権以外のものに区分される債権をいいます。

3. 単体自己資本比率

当JAの自己資本比率は令和4年9月末13.05%程度と国内基準4%を大幅に上回る水準を維持しています。

令和4年3月末	令和4年9月末(見込み)
13.09%	13.05%程度

注：1. 自己資本比率とは、貸出金等の総資産に占める自己資本の割合を示すもので、経営の安全性、健全性等を表す代表的な指標です。国内のみで営業を行う金融機関には4%以上が求められています。

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本の額(出資金や利益準備金、積立金、剰余金などの合計額)} \times 100}{\text{リスク・アセット(当JAの所有する預金や貸出金、有価証券その他の資産にそれぞれ定められた一定のリスク・ウェイトを掛けて計算した総額)} + \text{オペレーショナル・リスク相当額}}$$

2. 令和4年9月末の自己資本比率算出にあたり、仮決算の当期剰余金は法人税等見込額控除前の数値を使用しています。信用リスク・アセットの一部は、令和4年8月末を基準として行った資産自己査定結果に基づいて計算しています。また、オペレーショナル・リスク相当額は、直近決算における数値を使用しています。

4. 主要勘定の状況

(単位：百万円)

	令和3年9月末	令和4年3月末	令和4年9月末
貯金	312,204	314,105	320,833
貸出金	78,124	79,172	81,769
預金	215,559	206,431	207,068
有価証券	18,238	28,896	31,474

注：令和3年9月末及び令和4年9月末の残高は帳簿価額を、令和4年3月末の残高は貸借対照表計上額を表示しています。

5. 有価証券等の時価情報

(単位：百万円)

	令和4年3月末			令和4年9月末		
	帳簿価額	時価	含み損益	帳簿価額	時価	含み損益
満期保有目的の債券	10,653	10,694	40	10,755	10,574	▲181

(単位：百万円)

	令和4年3月末			令和4年9月末		
	取得原価	時価	評価差額	取得原価	時価	評価差額
その他有価証券	18,501	19,004	503	20,799	20,571	▲227
株式	1,194	1,849	654	1,209	1,858	649
債券	16,360	16,257	▲103	18,638	17,837	▲801
その他	946	898	▲48	951	876	▲75

- 注：1. 満期保有目的の債券、その他有価証券で時価のあるものを表示しています。
 2. その他有価証券には外部出資を含めて表示しています。
 3. 令和4年3月末及び令和4年9月末の含み損益・評価差額は、各時点の帳簿価額・取得原価との差額を表示しております。
 4. 子会社・関連会社株式で時価のあるものはありません。

※本資料中に表示している記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しており、金額百万円未満の項目については「0」で表示をしています。